

第4回 南砺市総合計画策定審議会

議事概要

令和2年1月17日（金）14:00～16:00
南砺市福野庁舎2階講堂

次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事
 - ・南砺まちづくりビジョン（第2次南砺市総合計画）（素案）について
4. 意見交換
5. 今後の予定について
6. 閉会

主な発言（検討）内容

○：委員からの質問・意見、●：事務局の意見・回答

【開会、中村会長あいさつ】

忙しい中の参加に感謝する。当初は3回の予定であったが、今回、しっかりとした計画を策定したいという思いから、追加として第4回審議会を開催させていただいた。昨今みられている災害などとも対峙していかなければならない。丁寧な議論を、それぞれの立場からご意見をいただければと思う。

【副市長あいさつ】

市長は先約があったため、やむを得ず欠席とさせていただいたことをご了承いただきたい。12月の第3回審議会でビジョンの素案を提示し、みなさまから様々なご意見をいただいた。国では第2期総合戦略の方針を定めており、本計画は総合戦略も兼ねるという考えのもと、国の動きと連動し、地方創生を着実に進めていきたい。本計画3月議会に提示したいため、今回の審議会が最終と考えている。みなさんのご意見を拝聴したい。

【南砺まちづくりビジョンについて】

○：前回の審議会後、キャッチコピーについてご意見をいただき、「誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまちへ」とさせていただいた。「一流の田舎」のフレーズを推す意見もあったが、若者にとっての印象や、「一流の田舎」というイメージが浸透していないこともあり、キャッチコピーには用いずに本文に記載することとした。

○：今回、市長の日程が合わなかったことは残念である。今回の場ではビジョンの最後の詰めを行うこととなったはずであり、市長の言葉で説明していただきたかった。また、SDGsについて、SDGs 未来都市として国から指定された絡みから、総合計画とSDGsの取組を全面に出した計画となるべきであり、また地域包括医療システムや小規模多機能自治など、南砺市でこれまで取り組んできた実績があり未来都市に指定されてきた経緯があるはずだが、今回の計画はそれが反映されていないのが残念である。また、「一流の田舎」という表現を推す人も多かったと記憶しているが、「誰ひとり・・・」と「誰もが笑顔で暮らし・・・」は表現が重複していると思う。「一流の田舎」の表現を掲載していただきたいと思う。

なお、「一流の田舎」の表現が浸透されていないとのことだが、一流の田舎になるために、今後10年間で何をすべきかを議論してきたはずであり、今後、将来に向けてチャレンジすることで一流の田舎になることを目指すべきである。まだ浸透していないからキャッチコピーから外すという考え方は、今後10年で、何をを目指すのかが明確ではなくなってしまい、残念に思う。

また、P3で市が取り組んでいる施策の一覧が掲載されており、行政改革推進計画、定員削減計画、第2期総合戦略が始まると聞いているが、これらの計画が頭から抜けているのはおかしい。総合戦略は2019年までであり、今回本計画に包括されるとのことだが、これらの計画は一覧表から外すべきではないと思う。

人口を増やすための子育て支援や婚活、移住定住などに特化した総合戦略を総合計画に盛り込むと、産めよ増やせよといった内容がキャッチコピーになってしまうので、別に計画書を立てなければならないのではないかと。高岡市でも同様の取組の中、総合戦略は別に立てているようである。

○：SDGsの精神が希薄ではないか、SDGsについては関連する計画で記載すること、5Pのキャッチコピーの下の将来像はほぼSDGsの考え方に沿って南砺市が直面する課題が提示されていると思われる。これを進めることでSDGsが達成できると思われるが、その内容を深掘りしていくことが必要。行政のみでSDGsが達成する訳ではないが、率先すべきであり、別計画とすべきである。

「一流の田舎」の認知については、南砺市が抱えている課題が成果をあげていけば、皆さんに認知してもらえるのではないかと。ただ、かなり丁寧な説明を要する

ということが、事務局の考え方ではないか。「一流の田舎」に関する精神は、現状でも十分に盛り込んでいるのではないかと思う。

総合戦略や人口ビジョンなどの策定方法については、新たに別計画として策定するところもあれば、総合戦略を包含するようなケースも多数ある。総合戦略と総合計画はオーバーラップするものであり、かなり似たようなところもあるため、総合計画で集約した形とすることも考えられる。総合戦略を別個に立てることもあり得るが。

第1回審議会で、総合計画をこのようなフレームで策定するというを前提に議論を進めてきた経緯があり、これまで総合戦略の内容が盛り込んであるかを議論してきた経緯がある。

- ：SDGsについては、向かう方向は総合計画と同じであり、SDGsでも相互計画との関連性を掲載する予定である。各種計画の記載内容については、また修正させていただきたい。
- ：キャッチフレーズについては「一流の田舎」を入れてはと意見も言ったこともあり、とんがった形とするのなら、「一流の田舎」とすべきとも思ったが、平坦な言葉を使えば反対する人はいないと思ったため、現在は3つの中ではこれが一番良いと思っている。ローカルサミットなどに参加させていただいた中、一流の田舎の説明はできるくらいの認識はできてきたような気がする。周りをみると、一流の田舎って何だという議論が出たことは良いことだったと思うが、一流があるならば二流三流はどうなんだという意見もあり、市民全体に理解してもらうためには若干無理があると思っている。本文に記載はあり、現状で良いのではないかと、今後、一流の田舎を目指していくために、議論を深めていくべき。市民の意識から遠ざかっていくことは本意ではない。ここでは最大公約数的なものとしていくことも必要なのではないか。とても平坦で南砺市らしいキャッチコピーとなったのではないかとと思うが、今後、中身を詰めるための議論をどう進めていくのかを検討していただいたい。
- ：とんがった表現で議論していく方法もあれば、簡単な内容で理解を得る方法もあると思う。
- ：前回も述べたが、防災については現状で文章化されているものは国土強靱化計画が記載されている程度であるが、戦略的な取り組みではないとのことであり、それは分かるが、少子化などもそうであり、防災について今後具体的にどうやっていくのかなど、災害については取り上げていくべきである。防災はこれからますます重要になり、例えば防風林がどんどん伐採されているらしいが、将来像の文章の中で、人工知能などと合わせ、自然環境の変化についても記載すべきではないか。もしくはP9、10の時代の潮流に文章として災害が入っているべきではないか。水害についても心配しており、これからの転入者も心配するのではないかと。国土強靱化計画に取り上げることは理解しているが、市としては、どこかに記載すべきではないか。
- ：防災の視点について、時代の潮流に掲載するのはどうか。冒頭のキャッチコピーの

下にワンフレーズを追加することは、これまで議論してきて作成した文章であるから難しいかもしれないが。

- ：内部で協議させてもらいたい。
- ：修正すべき点も何点かご議論いただいた。スケジュールを考えると、少々タイトなところであり、会長・副会長に一任いただけないか。

(一同、賛同)

- ：一任いただいたビジョン案について、パブコメさせていただきたい。

意見交換

- ：前回のP22では「未来に希望がもてるまち」の一番上に結婚のことであったが、今回、「教育環境の充実」が一番上にきて収まりがよくなった。少子化の中、学校教育をどうするのが喫緊の課題であり、今後よりよい教育環境としていきたい。
- ：今回の考えさせていただく機会の中、「一流の田舎」が繰り返し頭に入ってきており、10年後の言葉としてはふさわしいのかなと感じる。田舎のど真ん中で農業をしている私としては、稼げる農業との記載もあるが、これからは持続できる農林業が重要であり、人口が減る中でどうやってカバーするかだと思う。これからの10年に向け、持続させていくことは非常に重要である。屋敷林の伐採も持続できないからであり、持続できるようにしていくためにこれからは施策を充実していってほしい。
- ：大変勉強になった。未来に希望の持てる教育環境の充実について、学んだことを伝えることが使命と思っている。
- ：これまでに十分に討議がなされてきており、今後、総合計画は目標であり、この内容で進めてもらいたいと思う。私は五箇山に住んでおり、まちとは違う課題をもっているため、五箇山にも耳を傾けていただきたいと思います。
- ：市のあるべき姿は将来像でうたわれているが、これを実現するために、市民のやるべきこと、行政のやるべきことなど、覚悟をもって取り組むことが大切。手法として小規模多機能自治が挙がってきているが、地域で解決しようとするとき色々なハードルがある。知識や情報を持っているのは行政だと思うので、専門的分野に詳しい専門家や市の情報を提供いただき、市民協働で解決していってほしい。私の井波では、庁舎をどうするか、専門的な意見もいただかないと前に進まない。今後、実施に向けてアドバイスをいただきたい。十人十色の意見をうまくまとめてほしい。実施に向けて、支援をお願いしたい。
- ：地域づくり協議会の仕事をしており、他の委員と同じ思いである。4月に行政センタ

一長がいなくなるということで、こちらに仕事が回ってくると予想される。国勢調査の調査員についても、これまで行政で行っていた調査員の選出を地域づくり協議会で行ってほしいといった話もあり、仕事が増えてくるなという思いである。新聞では市職員を今後 10 年かけて 100 人を減らすとのことだが、その分こちらの負担が増えると危惧している。

- ：総合計画についてはだれもが分かりやすい表現となったと思うが、最後の「次代を担う子供たちが笑顔で暮らし続けられるまち」とキャッチコピーに若干差異があり、「誰もが」で納めればよいのではないか。キャッチコピーで大事なのは覚えやすいことが重要であり、「誰」で韻をふんでおり、めざすべきまちの姿が「まち」で終わっており、分かりやすいと思う。ただ、総合計画は中学生が読んで理解できるものとしてもらいたい。SDG s などは分からない。しっかりと分かるような表現としてもらいたい。総合計画とは別であるが、地域づくり協議会が大変だとの話であるが、行政センターがなくなることや心配しているが、我々が一緒にやっていくんだという姿勢のもと、南砺市を作ってもらいたい。
- ：5 年前に移住してきて、散居村に憧れていた。人もよく受け入れてくれた。非常に親切で面倒見がよかった。また、非常にまちづくりに熱心であり、そのような人がいるまちは、自慢できる。もう 1 点は、ここに来る前に、鹿児島にいたが、そこでは散歩していると、子供達からこんにちとはあいさつしてくれる。残念ながら、こちらの子供は何も言ってくれない。挨拶できる子供たちに育ててほしい。評価は難しいとは思いますが、P25 のように、教育は評価するものなのかという気もするが、点数ではなく、言葉が返ってくるような子供たちになってもらいたいと考えている。
- ：いい機会を与えていただいた。今回の総合計画の今後の 10 年については、皆さんの意見が反映され、満足している。ただ、各課の計画がぶら下がっているが、しっかりとした計画を策定してってもらいたい。
- ：丁寧に意見を聞いていただいたと思っている。あきらめではない市民と行政との関係が私は良いと思う。手間も時間もかかるものではあるが、無駄なものを有意義にしておくことも重要である。みなさんのそれぞれの思いを抑えつつ、今回概ねまとまったが、今後、有効に進んでいくようなプランや、小規模多機能自治や SDG s も絡め、地域のみなさんが取り組めるように、総合計画を進めてってもらいたい。
- ：今回の機会で、南砺市が抱えている課題を認識できた。一流の田舎を文章の中でさらりと記載されているが、若干さみしい気もする。サミットなども実施してきた経緯もあり、まだまだなんだとの意見を聞くとやる気があるのかと若干不安に感じた。次の P6 のまちの姿については、文章が良くなってきていると思うが、誰が主語なのかが分かりにくい。P33 以降も、学ぶことが楽しいと思うことについて、教育環境と、物理的なことばかりが挙がっており、教員などに関する記載がない。また P33 に施策の中に地域固有の景観は五箇山だけではないと思う。南砺市自体で指定してこれが南砺市だと示してもら

えれば。

- ：先日東京から息子が来て、この文章を読ませたところ、「一流の田舎」が良いと言っていた。一流の田舎については市長もずっと言われてきており、原田さんが言われたように、子供たちが分かるような文章とし、SDGsのような横文字は年配者に分かりにくく、何らかの注釈が必要なのではないか。また、子供達が分かりやすいように。また、子供達との意見交換をすることも必要ではないか。今後もう少し若い人にアピールしてもらいたい。
- ：大変意見がたくさん出たことは素晴らしい。教育を未来に希望が持てるまちで最初に持ってきていただいたのは良かった。そういうところを今後も推し進めていただきたい。
- ：一流の田舎について、我々も大いに活用していくことが必要と感じた。今後の南砺市を考えていくことが必要である。田畑を荒らさないように努めていきたい。
- ：「誰一人取り残さない、一流の田舎」をキャッチコピーとすべきだと今でも思っている。田中市長がずっと取り組んできた集大成である総合計画であるべきである。中学生が読めば分かる表現というのもごもっともだが、今のまちの姿はどれを見ても同じに見える。キャッチフレーズは10年先のことを言って、4つの方向性で具体的な内容とすべきである。これまで提案してきたが残念である。ローカルサミットでも話した土徳という言葉や、精神文化をこれからも子供たちにつなげていくという内容をまず記載すべきである。また、農業や林業が持続可能な南砺市、山や森をきれいに川や里の環境を良くして「一流の田舎」につなげ、中小企業や地場産業を育てていくことが必要。地域包括医療ケアで、病院だけでなく地域社会が一緒になって、誰もが取り残されない社会をつくり、小規模多機能で取り組むことを掲げ、最後に安全安心な南砺市をめざしていくという内容をしっかりと記載していくべきである。今後10年で南砺市は何に取り組むんだ、と目標に掲げてはつきり書くべきである。
- ：社会福祉協議会で活動しているが、高齢者や障害者などに関する内容は記載されていると思う。荒い形での表現となっはいるが、このような形で限界かなと思う。今後個別計画とも整合性を図ってってもらいたい。また、全体的に文章を整理していただいたため、私としてはすんと落ちる表現となっていると感じている。
- ：いろいろな意見が出たがうまくまとめていただいた。ただ10年後を考えた場合、めざすべきまちの姿として、技術革新が入り込んでくる時に、何が正しいかをしっかりと受け止めて、どう考え行くのが大事だと考える。どう自分で考えていくのが大事だとするならば、家庭での子育てこそが一番大事である。自分がしっかりしないと受け継いでいけない。
- ：ひと・しごとと働き方ということで、10年前は雇用の確保が重要度が高いけれども満足度が低い。リーマンショックにより雇用がなかった時と、今は労働者がいないという形で、雇用の状況も変わっている。10年後はどうなっているか分からないが、状況を見極めて進めていくことが必要である。また、年代や性別・国籍を問わない環境を整備し

ていくことなどで、人材を確保していくことが考えられる。市長とは企業と意見交換をされていくとのことだが、夫の子育てやイクボスなど、意識の問題があろうかと思うが、気運の醸成をはかっていくことが必要と思う。

- ：総合計画に記載されていることをさらに掘り下げていくこと、メッセージとしては少しいろいろなものが包括的な表現となっているため、やや見えにくくなっているけれどもその裏にあることをしっかりととらえていかなければならないこと、計画を地域づくり・まちづくりのエンジンとして活用していくこと、実施していくことが大事であること、個別計画との整合性や実効性を図ること、キャッチコピーとそれにつながる文章についてのご意見、また、それぞれの立場からの貴重なご意見もいただいた。全ての意見を答申することは難しいが、答申文とさせていただきます。内容については会長預かりとさせていただきます。
- ：総合計画の審議会について、これほど多様な意見をいただいた審議会はなかったと思う。10年程前に超一流の田舎と言った自負、個人的な思いはある。皆さんとも協力して取り組んでいきたい。
- ：貴重なご意見に感謝する。今後10年のまちづくりについて思いや意見をいただいたと思っている。不在の市長に代り感謝申し上げる。各種団体、様々な意見をいただいた。本日の意見を踏まえ、将来像の実現に向け、取り組みを進めていきたい。また、市民会議において、自分事がキーワードとして出され、本計画に反映させていただいた。今後とも市政にご協力いただきたい。
- ：今後、会長・副会長の答申を受けパブリックコメントを、その後議会へと上程する。

以上

